

1. 概要

- 令和5年春頃、横浜ノース・ドックに米陸軍が小型揚陸艇部隊を新編予定（13隻及び約280名の編成）

2. 意義

- 戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面する中、南西諸島を含む所要の場所に迅速に部隊・物資を展開可能
- 小型揚陸艇の特徴：
 - ・ ヘリや輸送機と比較して大量の物資の輸送可能
 - ・ 港湾がない場所や港湾が破壊された場所でも接岸可能



➡ 自然災害を含む様々な緊急事態について、日米が連携して対応する能力が向上

➤ 南海トラフ地震等を想定した日米合同災害対処訓練

⇒ 小型揚陸艇により被災地に大量の支援物資を輸送する想定



➤ 東京都帰宅困難者対策訓練

⇒ 小型揚陸艇により東京（江東区）に所在する多数の帰宅困難者を横浜に輸送



➤ 日米共同訓練「オリエント・シールド」

⇒ 日米共同訓練のため南西諸島に物資輸送。小型揚陸艇により、陸上自衛隊の部隊・装備品の輸送支援も実施



（参考）陸上自衛隊も導入中

⇒ 陸上自衛隊も輸送力強化のため同種の輸送船舶を導入中
※ 海上輸送力の強化は、自衛隊にとっても重要な課題



陸上自衛隊で導入予定の小型級船舶（イメージ）

3. 新編に伴う影響

- 新編に伴う船舶の増加なし（横浜ノース・ドックに配置済の船舶を使用）
- これまでは随時派遣であった船舶運用のための要員を常時配置
- 追加要員は神奈川県内の既存米軍施設等に居住